

## 保育現場の地域連携事業

——千葉市内の保育所等の実態調査から——

實川 慎子<sup>[1]</sup>, 高木夏奈子<sup>[1]</sup>, 栗原ひとみ<sup>[1]</sup>, 山田 千愛<sup>[1]</sup>, 高野 良子<sup>[1]</sup>

[1] 植草学園大学発達教育学部

本研究では、保育所等が行う地域連携事業の活動内容の特徴や課題を明らかにすることを目的に、2018年6～7月に千葉市内保育所等230園を対象に、地域連携事業に関する質問紙調査を実施した。その結果、実施している活動では、世代間交流、絵本ボランティア、観劇・音楽会等が多く、園内環境や園外環境の整備、運動会や発表会等の手伝いが少なかった。開設から20年以上の園で活動実施数が多く、開設年数が浅い園では少なかった。活動内容によって実施頻度は異なっていたが、実施園での満足度は一様に高かった。実施している活動の理由で多かったのは、子どもの学びが多いことや交流する住民が近所にいることであり、反対に実施していない活動の理由で多かったのは、地域住民や園職員の負担が大きいことであった。近所に交流する住民がいるため実施している活動内容と、近所の住民ではないが持っている技術が高いため実施している活動内容があった。

**キーワード**：発達段階、指導法、記憶、知的好奇心、デジタル教材

### 1. 問題と目的

2017年3月に保育所保育指針が改訂となり、保育所保育が施設内にとどまるものではなく、地域住民や地域の関連機関等と緊密に連携し、協働していくことが明記された。この背景の一つに、保育所を利用する親子が、多様で複雑な社会的ニーズを持つようになり、地域資源を積極的に活かしながら、地域全体で親子を支援していく必要性が高まっていることがある。また、近年の地域のコミュニティの弱体化や、核家族化・単独世帯の増加に伴って、幼児と多様な世代との交流機会が少なくなっている状況がある(角間・石崎, 2008)。幼児が多様な世代と交流し、豊かな経験を重ねていけるような取り組みを保育所の事業として行い、継続していくことが求められている。

千葉市は、人口約98万人(2018年8月現在)の

政令指定都市であり、市内には公立保育所57園、私立保育所118園、小規模保育園55園がある(2018年8月現在)。各園では、地域資源を活かしながら、それぞれの地域の実情に合わせて保育を行っていると考えられるが、具体的な地域連携の取り組み内容は明らかにされていない。千葉市内の幼稚園・保育所、地域子育て支援拠点事業所、子育てサークルでは、地域の専門機関や他の子育て支援団体等との連携において、実施内容や実施数等に違いがあり、連携のしやすさが異なることが指摘されている(實川, 2017)。千葉市内の保育所等の地域連携事業においても、取り組み内容や連携のしやすさが異なると考えられる。地域連携事業における取り組み内容から、連携の実施のしやすさに繋がる要因を明らかにすることにより、保育所等における地域連携事業の充実を図ることができる。そこで、本研究では、

保育所等の地域連携の実態を調査・分析し、活動内容の特徴や課題を明らかにすることを目的とする。

なお、地域連携事業には、保健福祉センターや児童相談所、療育センター、病院等の地域の専門機関との連携を指す場合と、地域住民によるボランティア等を保育に受け入れ、子どもの経験を豊かにしていく取り組みとがある。本研究では、とくに後者の地域住民による活動を保育へ積極的に活用し、保育所等の事業として行うものを地域連携事業とする。

## 2. 方法

### 2.1 手続き

2018年6～7月に千葉市の公立・私立の認可保育所・小規模保育園、計230園を対象に、地域連携事業の実態に関する質問紙を郵送により一括して送付した。調査用紙は園からの返送により回収した。調査用紙回収の締め切りは、2018年7月末とした。公立・私立の認可保育所・小規模保育園134園から回答を得た。回収率は58.3%であった。なお、回答結果について、園の属性の一部や設問への未記入（無回答）があったが、極力調査対象にすることを心掛け、未記入（無回答）の設問項目のみ集計から除外した。そのため、設問項目によって回答数の合計が異なる。

### 2.2 調査項目

質問紙はA4版5ページで、調査内容は、①過去3年間の地域連携事業の取り組み、②保育の周辺業務に関する保育者の負担感、③地域のボランティアに依頼したい保育の周辺業務、④地域のボランティアに周辺業務を依頼するにあたっての配慮である。本研究では、これら①～④のうち、①過去3年間の地域連携事業の取り組みに関わる内容について検討を行う。

質問紙作成にあたり、地域連携事業の取り組みを具体的に明らかにするために、現在実施されている内容を文献等で整理したうえで、事前に複数の保育所に質問紙作成のための予備調査を行い、設問項目

表1 本研究での調査項目

1. 回答園属性
(1) 設置者(公立・私立)
(2) 園の種別(保育所(園)・小規模保育所(園))
(3) 園児数
(4) 開園した年
(5) 回答者役職
2. 過去3年間の地域連携事業の活動内容
(1) 芸術・文化分野
観劇・音楽会
絵本ボランティア
伝承遊び・手作り玩具
(2) 生活整備分野
園内環境整備(ぞうきん作り・植栽手入れ等)
園外環境整備(草抜き等)
(3) 体験補助分野
世代間交流(市民・高齢者・学生等含む)
運動会や発表会等の手伝い
芋掘り等食育・自然体験
(4) その他 自由記述

を表1に示す回答園属性と地域連携事業の活動内容に設定した。活動内容は、大きく「芸術・文化」「生活整備」「体験補助」の3分野で構成し、各分野について具体的活動内容を設定した。「芸術・文化」分野の活動内容は、「観劇・音楽会」「絵本ボランティア」「伝承遊び・手作り玩具」。「生活整備」分野の活動内容は、「園内環境整備(ぞうきん作り・植栽手入れ等)」「園外環境整備(草抜き等)」。「体験補助」分野の活動内容は、「世代間交流(市民・高齢者・学生等含む)」「運動会や発表会等の手伝い」「芋掘り等食育・自然体験」である。その他として活動内容に関する「自由記述」欄も設けた。さらにそれぞれの活動内容について、「実施の有無」「実施頻度」「満足度」「満足度の理由」を尋ねた。実施頻度は「年24回(月2回)以上」「年12回(月1回)以上」「年6回以上」「年1回以上」の4件法で尋ね、満足度は「とても満足」「やや満足」「やや不満足」「とても不満足」の4件法で尋ねた。満足度の理由は「そう思う」「どちらともいえない」「思わない」の3件法で尋ねた。満足度の回答理由(以下、「理由」とする)の選択肢は複数回答で「連絡がすぐにできる」「持っている技術が高い」「子どもの学び・興味・関心が高い」「地域の人の負担が

大きい」「交流する人が近所にいる」「交流する人との相性が良い」「保育に対する地域の人々の理解がある」「園の職員負担が大きい」「交流する地域の人が多い」「その他（自由記述）」と10肢用意した。このうちアンケート結果の信憑性を高めるために、「地域の人の負担が大きい」「園の職員負担が大きい」の2つの逆転項目を挿入した。これら10肢から複数回答で、実施している活動内容での「理由」または実施していない活動での「理由」を尋ねた。なお実施理由ではなく、活動内容への満足度に対する理由を尋ねたのは、実施の有無によらず、肯定的・否定的理由が複数関連している可能性があり、実施上の課題として詳細に把握するためである。

### 2.3 倫理的配慮

質問紙の郵送にあたり、本研究の目的や方法を書面で丁寧に説明し、協力可能な場合には質問紙への回答を依頼した。返信された回答は、第三者の目に触れないように施錠できる場所に厳重に保管した。また協力園が特定されないよう園名を記号化して分析した。なお、本研究結果の送付を希望している園には、記名をお願いした。

## 3. 結果

### 3.1 回答園属性

表2に示す通り、分析対象園の内訳は、公立保育所が53園(39.6%)、私立保育所が53園(39.6%)、小規模保育園が28園(20.9%)であった(以下公立・私立・小規模とする)。なお%は小数点第二位を四捨五入している。

開園からの年数による回答園の分布は図1の通りである。小規模は開園から5年未満が81.5%であり、公立は53園全てが20年以上である。園児数別の回答園の分布は図2の通りである。「定員弾力化」(厚生労働省, 2016)により小規模でも園児数が20名の回答が5件あった。公立は50～150名未満の規模にその84.6%が集中している。

表2 分析対象園の内訳

園の種別	公立	私立	小規模
園数	53	53	28
%	39.6%	39.6%	20.9%

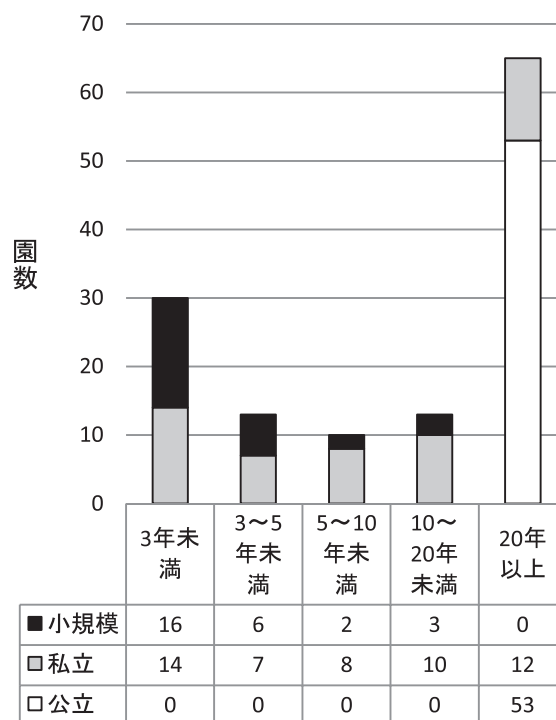


図1 開設からの年数別の園数

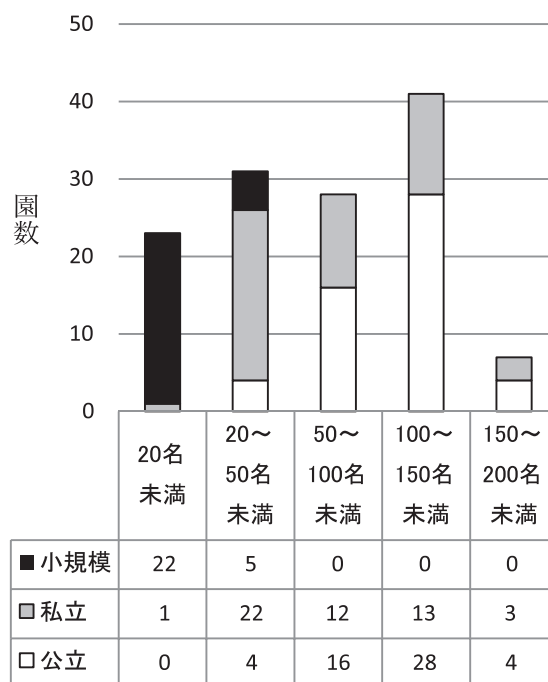


図2 園児数別の園数

### 3.2 全体的結果

以下、全体的結果について統計分析ソフト js-STAR を用いて実施比率に偏りがあるかを検討した。なお、活動内容、開設からの年数、園児数と各回答数の関連は、公立・私立・小規模での回答数を合計し分析した。

公立・私立・小規模での実施比率に偏りがあるかを検討するため、園の種別(3項目)×実施の有無(2項目)の $\chi^2$ 検定を行った。その結果を表3に示す。実施比率の偏りは有意だった( $\chi^2(2)=42.81, p<.01$ )。

残差分析の結果、公立では連携事業を実施している園が多く、小規模では実施していない園が多かった。

開設からの年数により実施比率に偏りがあるかを検討するため、「実施している」と回答のあった園について、開設してからの年数(4項目)の $\chi^2$ 検定を行った。表4に示すように設置からの年数による実施比率の偏りは有意だった( $\chi^2(4)=386.012, p<.01$ )。ライアンの多重比較( $p<.05$ )の結果、「20年以上」は20年未満の園より実施比率が高かった。

園児数による実施比率に偏りがあるかを検討するため、実施の有無(2項目)×園児数(5項目)の $\chi^2$ 検定を行った。表5に示すように、園児数による実施比率の偏りは有意だった( $\chi^2(4)=46.416, p<.01$ )。残差分析の結果、「実施している」園では、100～150名未満の園が多く、「実施していない」園では、20名未満の園が多かった。

表3 公立・私立・小規模での回答数

	実施している	実施していない
公立	183	235
%	52.6	36.6
私立	128	232
%	36.8	36.1
小規模	37	175
%	10.6	27.3
計	348	642
%	100.0	100.0

\*\* $p<.01$

表4 開設からの年数別「実施している」の回答数

	3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20年以上	計
実測値	47	31	24	30	215	347
%	13.5	8.9	6.9	8.6	62.0	100.0

表5 園児数別回答数

	実施している	実施していない	計
20名未満	23 **	152 **	175
%	13.1	86.9	100.0
20～50名未満	86	164	250
%	34.4	65.6	100.0
50～100名未満	87 †	134 †	221
%	39.4	60.6	100.0
100～150名未満	131 **	178 **	309
%	42.4	57.6	100.0
150～200名未満	18	30	48
%	37.5	62.5	100.0
計	345	658	1003
%	34.4	65.6	100.0

†  $p<.10$  \* $p<.05$  \*\* $p<.01$

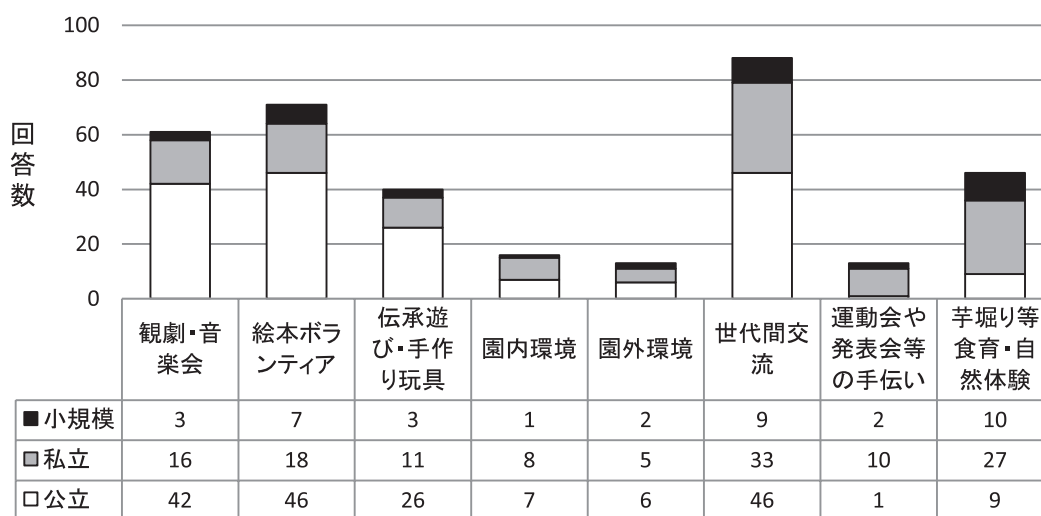


図3 活動内容別「実施している」の回答数(複数回答)

### 3.3 活動内容別結果

#### (1) 「実施している」活動内容の回答数

図3に、活動内容別に公立・私立・小規模における「実施している」とした回答数を示す。

公立・私立・小規模において、「世代間交流」(回答数88 以下回答数を示す)は、他の活動内容よりも多く行われている。次いで「絵本ボランティア」(71)、「観劇・音楽会」(61)である。反対に、「園内環境」(16)、「園外環境」(13)、「運動会や発表会等の手伝い」(13)は回答数が少ない。設置種別にみると、公立では、多い順に「世代間交流」(46)、「絵本ボランティア」(46)、「観劇・音楽会」(42)、「伝承遊び・手作り玩具」(26)である。私立では、多い順に「世代間交流」(33)、「芋掘り等食育・自然

体験」(27)、「絵本ボランティア」(18)、「観劇・音楽会」(16)である。「運動会や発表会等の手伝い」については、公立では回答数1であったが、私立では回答数10であった。小規模は、「芋掘り等食育・自然体験」(10)、「世代間交流」(9)、「絵本ボランティア」(7)が他の活動に比べて多く実施されている。

#### (2) 実施頻度

活動内容別の実施頻度の分布は図4の通りである。「観劇・音楽会」は回答数61の全てが「年1回以上」である。「世代間交流」も「年1回以上」の回答数が60となっている。「年12回以上」「年24回以上」では「絵本ボランティア」が突出して多く実施されている。

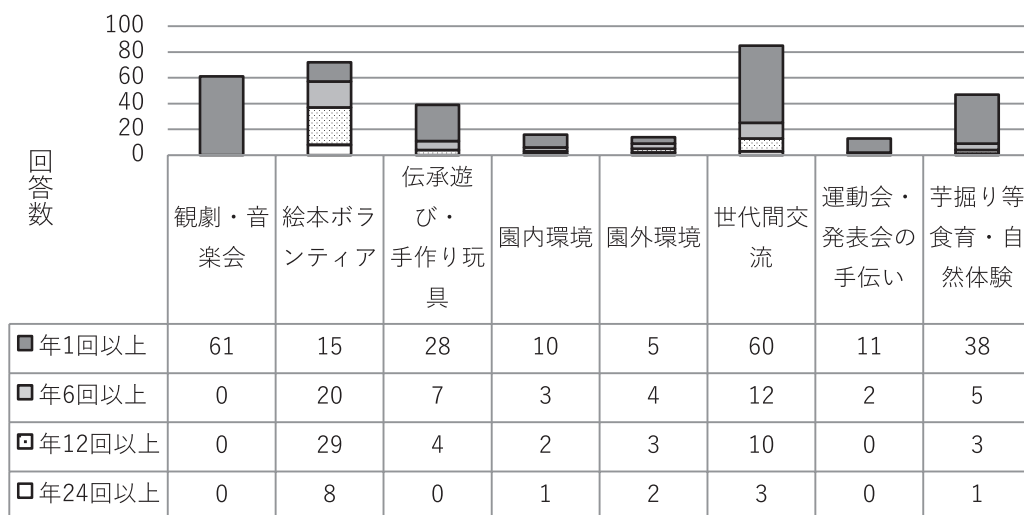


図4 活動内容別実施頻度の回答数 (複数回答)

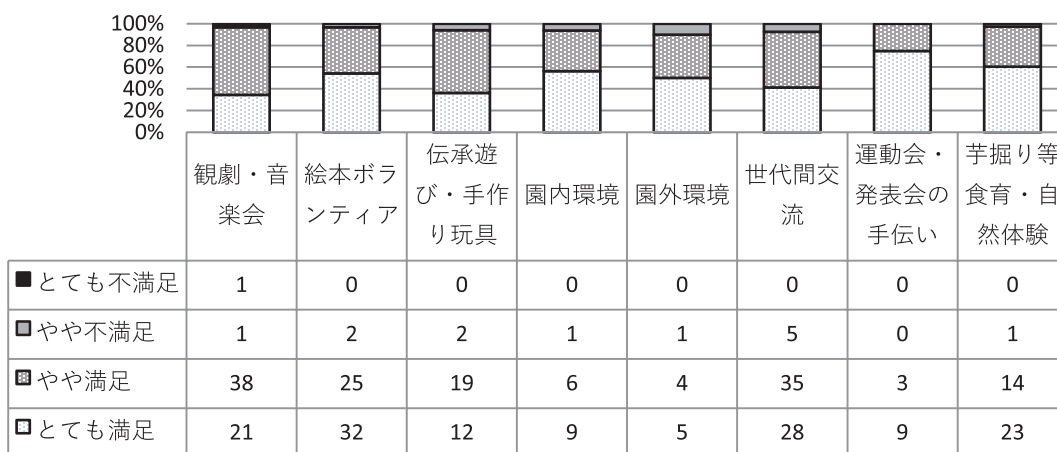


図5 活動内容別満足度の回答数及び割合 (複数回答)

### (3) 満足度

活動内容別の満足度の分布は図5の通りである。全ての活動で「とても満足」「やや満足」を合わせて90%を上回っている。

### (4) 「実施している」活動内容の「理由」

「実施している」活動の「理由」を図6に示す。「そう思う」「どちらともいえない」「思わない」のうち「そう思う」と回答のあった「理由」を活動内容別に集計した。以下に回答数の多かった「理由」について述べる。

観劇・音楽会を実施している「理由」で一番多いものは「子どもの学び・興味・関心が高い」(48)、次に「持っている技術が高い」(24)であった。観劇・音楽会は日常の保育の中では体験できないものであり、子どもの学びが高いために実施していると回答する園が多かった。

絵本ボランティアを実施している「理由」で一番多いものは「子どもの学び・興味・関心が高い」(53)、次に「連絡がすぐにできる」(39)、「持っている技術が高い」(33)であった。少ないものは「地域の人の負担が大きい」(2)、「園職員の負担が大きい」(0)であり、地域住民・職員共に負担が少ないことが示された。

伝承遊び・手作り玩具を実施している「理由」で一番多いものは「子どもの学び・興味・関心が高い」(24)であった。次いで「交流する人が近所にいる」(18)、「保育に対する理解がある」(14)であった。

園内環境整備を実施している「理由」で一番多いものは「地域の人の負担が大きい」(9)、「交流する人が近所にいる」(9)であった。実施しているにもかかわらず、園内環境整備は「地域の人の負担が大きい」活動内容であることが示された。園内環境整備については「交流する人数が多い」(0)以外は理由の10肢がほぼ分散している。交流する住民は近所にいるもののその人数は多くはないという結果である。

園外環境整備を実施している「理由」で一番多いものは「連絡がすぐにできる」(8)、「保育に対する

理解がある」(8)であった。この2つの「理由」(16)で全体(36)の44.4%であり、「理由」の半数近くを占めている。

世代間交流を実施している「理由」で一番多いものは「交流する人が近所にいる」(57)、次いで「連絡がすぐにできる」(41)であった。この2つの「理由」(98)で全体(214)の45.8%を占めている。

運動会や発表会等の手伝いを実施している「理由」で一番多いものは「連絡がすぐにできる」(8)であった。次いで「子どもの学び・興味・関心が高い」(7)であった。「持っている技術が高い」(1)、「園の職員負担が大きい」(1)は共に低かった。

芋掘り等食育・自然体験を実施している「理由」で一番多いものは「子どもの学び・興味・関心が高い」(33)であった。次いで「交流する人が近所にいる」(25)、「連絡がすぐにできる」(23)であった。「交流する人が近所にいる」「連絡がすぐにできる」は、地域住民へのアプローチに関する項目であり、これらを合計すると全体(143)の33.6%を占めた。

### (5) 「実施していない」活動内容の「理由」

「実施していない」活動の「理由」を図7に示す。「そう思う」と回答のあった項目を活動内容別に集計した。以下に回答数の多かった「理由」について述べる。

観劇・音楽会を実施していない「理由」で一番多いものは、「園職員の負担が大きい」(15)であった。会場や設備についてのやり取り、当日の段取り等実施に向けた事務的なことも含めて、様々な準備が園職員の負担になっている結果であった。

絵本ボランティアを実施していない「理由」で一番多いものは、「子どもの学び・興味・関心が高い」(10)であった。次いで「園職員の負担が大きい」(7)であった。

伝承遊び・手作り玩具を実施していない「理由」で一番多いものは、「子どもの学び・興味・関心が高い」(14)であった。次いで「自由記述」(11)、「地域の人の負担が大きい」(7)であった。自由記述には「日程調整が難しい」「機会がない」等があった。伝承遊び・手作り玩具と絵本ボランティアは共に「交

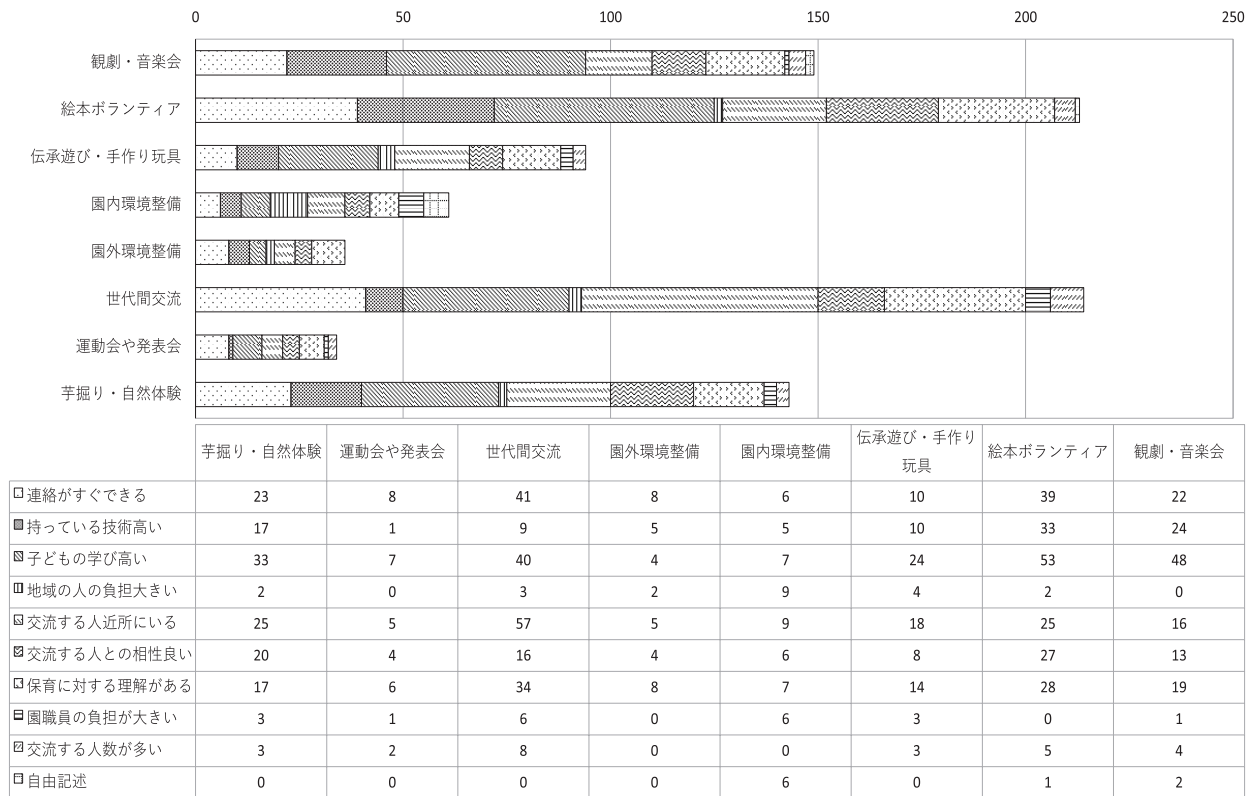


図6 「実施している」活動内容の「理由」(複数回答)

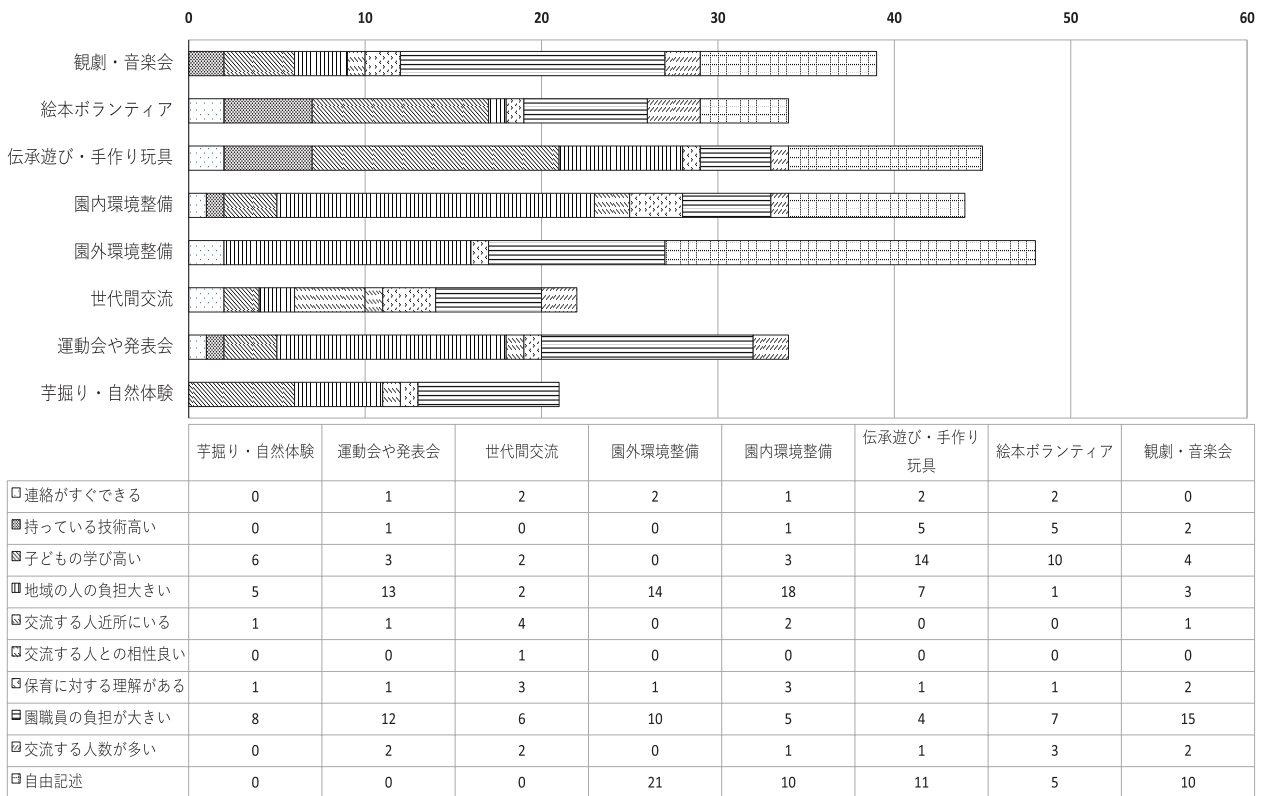


図7 「実施していない」活動内容の「理由」(複数回答)

流する人が近所にいる」(0)、「交流する人との相性が良い」(0)は回答されていない。

園内環境整備を実施していない「理由」で一番多いものは、「地域の人の負担が大きい」(18)であった。

園外環境整備を実施していない「理由」で一番多いものは、「自由記述」(21)であり、選択肢には該当しない理由が多い結果となった。自由記述には、「機会がない」「現在は必要としていない」「職員で行う」等の記述があった。

運動会や発表会等の手伝いを実施していない「理由」で一番多いものは、「地域の人の負担が大きい」(13)、「園職員の負担が大きい」(12)であった。

芋掘り等食育・自然体験を実施していない「理由」で一番多いものは、「園職員の負担が大きい」(8)であった。

## 4. 考察

### 4.1 全体的結果について

公立・私立・小規模で実施比率を比較した結果、公立の実施比率が高く、小規模の実施比率が低かった。また、開設から20年以上経過している園の実施比率も高かった。公立は全て、開設から20年以上経過しており、地域との連携体制が十分に整っているため実施しやすいと考えられる。一方、小規模は開設からの年数が浅いことから、まだ実施できていない園も多く、今後、地域連携事業の実施を予定している園も多いと予想される。

園児数による実施比率をみると、100～150名未満の園児数をもつ園での実施比率が高かった。100～150名未満の園種別をみると、公立が28園、私立が13園である。したがって100～150名未満の園児数をもつ園での実施比率の高さには、設立から20年以上経過し、実施比率が高い公立の影響が考えられる。一方、20名未満の園児数をもつ園では、実施していない園の比率が高かった。20名未満の園は、私立1園以外は全て小規模である。小規模は、上述のように設立からの年数が浅く、まだ実施する体制

が整っていないと考えられる。以上から園児数の多寡によって、実施比率が左右されるということではなく、設立からの年数が影響している可能性がある。

### 4.2 活動内容別結果について

#### (1) 「実施している」活動内容の特徴

活動内容をみると、回答数の多い順に「世代間交流」「絵本ボランティア」「観劇・音楽会」「芋掘り等食育・自然体験」「伝承遊び・手作り玩具」等となっている。こうした活動内容は園にとって、比較的实施しやすい活動であると考えられる。またこれらの活動内容は、それぞれ実施頻度が異なっており、活動内容に応じた頻度で実施することが、園の保育に適した地域連携事業となると考えられる。実施園での満足度がどの活動内容についても高かったことは、これを示すものといえる。

#### (2) 「実施している」活動内容の「理由」

実施している活動内容別に「理由」をみてみると、子どもに直接かかわる活動内容は「子どもの学び・興味・関心が高い」が多く選択されていた。「観劇・音楽会」「絵本ボランティア」「伝承遊び・手作り玩具」「芋掘り等食育・自然体験」である。逆に子どもと直接かかわらないと思われる「園内整備」「園外整備」「運動会や発表会の手伝い」は実施数も少ない。特に「園内環境整備」については実施の「理由」に「地域の人の負担が大きい」「交流する人が近所にいる」が共に一番多く回答されている。近所の地域住民によって園内環境整備を行ってはいるが、地域住民の負担が大きいことが示された。こうした地域住民の負担が大きいことが実施数の少なさとなっていると考えられる。

「世代間交流」「伝承遊び・手作り玩具」「芋掘り等食育・自然体験」は「交流する人が近所にいる」が実施の「理由」に多く挙げられている。交流する住民が近所であることが「理由」として大きいと考えられる。特に「世代間交流」については「交流する人が近所にいる」「連絡がすぐできる」が回答数の約半数を占めている。アプローチのしやすさが重



要であると考えられる。

「観劇・音楽会」「絵本ボランティア」は、他の活動内容と比較すると「持っている技術が高い」が多く回答され、「交流する人が近所にいる」よりも多かった。これは近所ではないが、高い技術を持った地域住民が園に来て活動を行っているということだろう。このように考えると、「世代間交流」「伝承遊び・手作り玩具」「芋掘り等食育・自然体験」のように近所の地域住民と連携していく近所型事業と、「観劇・音楽会」「絵本ボランティア」のように近所ではないが高い技術を持っている地域住民と連携していく技術型事業との2つの傾向が推察されるのではないか。

実施している活動内容の「理由」で回答数が多いのは「絵本ボランティア」と「世代間交流」である。これは実施数と比例している結果であった。しかし最も多く選択された「理由」は異なっていた。「絵本ボランティア」では「子どもの学び・興味・関心が高い」が一番多く、「世代間交流」は「交流する人が近所にいる」が一番多い結果であった。近所ではないが高い技術を持っている地域住民と連携していく理由として「子どもの学び・興味・関心が高い」があると推察される。また「絵本ボランティア」と「世代間交流」は、共に「地域の人の負担が大きい」「園職員の負担が大きい」が少なかった。これは逆転項目として挿入した選択肢である。活動を実施している（もしくは実施できている）理由として、地域住民・園職員の負担が大きくないことに留意すべきである。

以上から実施しやすい活動の特徴の1つ目として、「子どもの学び・興味・関心が高い」「交流する人が近所にいる」ことが重要であることが示唆される。特徴の2つ目として「地域の人の負担が大きい」「園の職員負担が大きい」ということはない、地域住民にとっても園職員にとっても負担が少ない活動であることが示唆される。

### (3) 「実施していない」活動内容の「理由」

「園内環境」を実施していない「理由」で一番多かったのは「地域の人の負担が大きい」である。園

内環境にはぞうきん作り等の手作業だけでなく植栽の手入れ・壁面のペンキ塗り等体力・時間を要するものも含まれている。地域住民の負担が軽くないことは容易に察することができる。また、「園職員の負担が大きい」も回答されている。園内の保育環境は子どもの安全が最優先され、地域住民が不審者や保菌者でないことが確認されなければ活動に参加してもらうことはできない。子どもの安全に加えて、子どもの急な動きによる地域住民の転倒や怪我を防ぐ等、地域住民の安全も担保しなければならない。作業内容による地域住民の負担と、子どもと住民の安全確保のための園職員の負担が大きいため、実施できていないのではないか。

「園外環境」を実施していない「理由」としては「自由記述」が多く、「職員で行っている」「用務員がいる」「園庭がない」等があった。自由記述には選択肢にはあてはまらない園固有の事情があると推察される。

「運動会・発表会等の手伝い」を実施していない「理由」で多かったのは、「地域の人の負担が大きい」「園職員の負担が大きい」であった。行事等の手伝いではあっても、事前に業務内容や配慮事項等を伝えなければならない。行事の運営に直接関与する活動だけに、単純に手伝ってもらおうというわけにはいかののではないか。そういった背景が推察される。

### (4) 地域連携事業の実施に際する課題

活動内容別「理由」から考察される課題を記す。

「園内環境」では、実施している・していないに関わらず、最も多い「理由」は「地域の人の負担が大きい」であった。園内に直接参入すると園児の安全、地域住民の安全等、配慮すべきことが多く園職員の負担が大きくなりやすい。地域住民と園児が交流する機会は園児と地域住民双方にとって有効であるが、それも頻度が高すぎると園職員の負担が大きくなりすぎてしまう。今後は地域住民が直接園内に入らずとも、間接的に園内環境の整備に関わっている連携のあり方も検討していく必要があるだろう。実施においては、地域住民や園職員の負担軽減が重要なカギとなることが示唆された。

## 5. 総括

これまで地域連携事業は、多くの保育所等で実施されているにもかかわらず、活動内容や特徴、課題等が具体的に明らかにされていなかった。本研究では、千葉市内の保育所等における地域連携事業の取り組みの実態から、次のような地域連携事業の活動内容の特徴と課題を明らかにした。①開設から20年以上経過している園は、地域連携事業を多く実施している。このことから、地域連携事業を活発に行っていくためには、基盤となる地域住民との関係作りが必要であり、設置からの時間も必要となる。②活動内容には、「世代間交流」「絵本ボランティア」「観劇・音楽会」のように実施しやすい活動と「園内環境」「園外環境」「運動会や発表会等の手伝い」のように実施しにくい活動がある。③活動内容によって実施頻度が異なるが、実施している活動については、一様に園の満足度が高い。このことから、活動内容に応じた実施頻度で行うことが重要である。④実施している活動内容での「理由」として多いのは「子どもの学び・興味・関心が高い」「交流する人が近所にいる」ことであり、実施していない「理由」として多いのは「地域の人の負担が大きい」「園職員の負担が大きい」である。このことから、地域連携事業を実施するには、「子どもの学び・興味・関心が高い」内容で、「交流する人が近所にいる」こと、地域住民や園職員の負担が少ないことが重要である。⑤一方で、地域連携事業の活動内容によって地域住民との連携のしかたが異なる。「世代間交流」「伝承遊び・手作り玩具」「芋掘り等食育・自然体験」のように、近所の地域住民と連携していく事業と、「観劇・音楽会」「絵本ボランティア」のように近所ではないが高い技術を持っている地域住民と連携していく事業がある。

本研究で明らかにした上記①～⑤の地域連携事業の活動内容の特徴と課題は、今後、千葉市以外の地域において地域連携事業を実施し内容の充実を図っ

ていく上で、検討すべき内容といえる。たとえば、園の開設からの年数に応じて、実施しやすい活動内容を行っていくこと等が挙げられる。また本研究から、「世代間交流」「観劇・音楽会」は年1回の頻度で実施している園が多いことが示された。今後新たに地域連携事業を始める園にとっては、こうした活動内容から取り入れてみると実施しやすいのではないだろうか。地域住民と園の職員双方にとって負担が少ない連携のあり方を探り、地域と園の実情に応じて実践していく必要がある。

## 謝辞

本研究にご協力いただいた千葉市内保育所・小規模保育園の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

## 文献

- 實川 慎子 (2017). 「千葉市内の地域子育て支援関連施設・団体の持つ他職種・他機関ネットワーク 少子・超高齢化社会における活力あるコミュニティの形成研究—保育・教育・保健医療との有機的繋がりを軸として」高野良子・小池和子・栗原ひとみ・高木夏奈子・實川慎子・中野聡子・山田千愛『2017年度植草学園大学研究ブランディング事業研究成果第1次報告書』, 28-40.
- 角間 陽子・石崎 恭子 (2008). 「子どもと高齢者の世代間交流における実態と課題—「高齢者の保育補助事業」を中心に—」『一般社団法人日本家政学会研究発表要旨集』60, 281.
- 厚生労働省 (2016). 『保育分野における規制改革 (オンライン)』 (<<http://www8.cao.go.jp/kisei-kaikaku/kaigi/meeting/2013/wg4/kenko/160414/item2.pdf>>). (参照 2018. 9. 3)
- 尾崎 司 (2017). 「保育における「高齢者とのかかわり」：世代間交流概念から領域「人間関係」をとらえ直す」『東京家政大学教員養成教育推進室年報』4, 57-63.

## Abstract

### **Community Cooperation Activities by Nursery Schools and Other Day-care Facilities : Based on the Fact-finding Survey at Nursery Schools in Chiba City**

Noriko Jitsukawa<sup>[1]</sup>, Kanako Takagi<sup>[1]</sup>, Hitomi Kurihara<sup>[1]</sup>, Chie Yamada<sup>[1]</sup>, Yoshiko Takano<sup>[1]</sup>

[1] Faculty of Child Development and Education, Uekusa Gakuen University

In this study, we performed a questionnaire survey regarding community cooperation activities by 230 nursery schools and other day-care facilities in Chiba City in June and July 2018, aiming to clarify the features and issues of the community cooperation activities conducted by nursery schools. The results showed that the activities mainly comprised intergenerational exchange, read-aloud volunteer, watching plays and listening to music concerts, while people in the community were not very involved in adjusting the environment inside or outside nursery schools or assisting with sports festivals or concerts. The nursery schools with more than 20 years of history since their establishment carried out a larger number of activities, while the nursery schools with a shorter history carried out a smaller number of activities. The frequency of the activities differed depending on the content of the activities themselves; however, the people involved in the activities at the nursery schools reported being highly satisfied. The reasons given by many nursery schools for conducting activities were that children could learn many things, and there were many people to socialize with in the neighborhood. However, many nursery schools that did not conduct such activities regarded these activities as burdens on their employees and people in the community. With regard to the content of the activities, some were carried out because there were many people to socialize with in the neighborhood, and the others were carried out because there were people available who had excellent skills, even though they did not live in the neighborhood.

**Keywords:** community cooperation activities, nursery schools and other day-care facilities, a questionnaire survey, intergenerational exchange, people in the community

